

循環器内科を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	大動脈弁狭窄症における収縮期冠動脈逆流波の臨床的意義についての検討
研究機関の長(試料・情報の管理責任者)	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	(所属) 内科学講座(循環器内科) (職名) 教授 (氏名) 天野哲也
研究の対象となる方	2023年7月から2027年8月までに大動脈弁狭窄症の精査のために経胸壁心エコー図検査が施行された20歳以上の患者さん
研究期間	研究実施承認日 ~ 2027年8月31日
研究目的及び利用方法	<p>[研究目的]</p> <p>大動脈弁狭窄症(AS)を有する患者さんの主たる症状に狭心症があります。ASを有する患者さんは冠動脈血流が低下しており、特に収縮期においては、高い左室内圧により心筋内走行する冠動脈が圧迫されることで発生する収縮期冠動脈逆流波(SFR)という特徴的な所見がみられることがあります。冠動脈血流波形は心エコー図のドプラ法で観察可能であり、重症ASを有する患者さんにSFRを認め、潜在的な心機能低下の原因となる可能性があります。一方で、軽症ASや中等症ASを有する患者さんにSFRを認めるかどうかは明らかではありません。ASの重症度診断は主に経胸壁心エコー図を用いて、大動脈弁開口面積や大動脈弁通過血流速度を定量的に評価し決定されますが、その重症度診断は必ずしも容易ではなく、しばしば判断に迷います。ASの重症度と冠動脈血流との関係を解析することでSFRの有無がASの重症度診断の簡便な指標となる可能性があります。またSFRは狭心症症状や心機能低下との関連する可能性があり、併せてSFRと症状および心機能との関係も評価します。</p> <p>[利用方法]</p> <p>冠動脈血流パターンを評価することでASの重症度や心機能、症状を評価するのに役立っています。</p> <p>[外部への試料・情報の提供]</p> <p>非該当</p> <p>[外部への提供開始日]</p> <p>非該当</p>
研究に用いる試料・情報の取得方法及び	試料：非該当 情報：診療録(カルテ)から、年齢、性別、既往歴、血液検査結果、心エコー

項目	図所見等を収集。
提供する試料・情報を用いる学外の研究責任者	非該当
試料・情報を利用する学外の者	非該当
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2027年11月30日までに下記問い合わせ先まで申し出てください。
外国への試料・情報の提供	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学病院 循環器内科 担当者：(職名) 医員助教 (氏名) 鈴木航 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 23490)